

株式会社赤松産業

伐採現場へのハーベスタの導入によって、林業分野の構造改革、働き方改革へ！



ハーベスタによる伐採・造材・集積風景

事業計画名

過酷で危険な森林伐採作業を「オペレート作業」へと転換するためのハーベスタの導入

企業紹介

平成24年、名称を「株式会社 赤松産業」に変更し現社長が代表取締役に就任。事業内容は、建設業、産業廃棄物処理・処分業、産業廃棄物再生業、道路舗装業、林業、製材業、造園業など多岐に渡る。リサイクルとエコロジーを合わせた「レコ」を商標登録として取得し環境保全、資源リサイクルの観点からレコ事業を推進。土木、建設工事発注高の激減により約7年前から、環境保全を大前提とした国が勤める伐採林齢のスギ・ヒノキを中心に、皆伐事業から木材加工事業までの一体的な取り組みに会社の将来性を託すべく取り組んでいる。

事業の計画概要

伐採適齢期を迎えたスギやヒノキが国内に充満している。伐採から植林への山の循環を維持し、「治山・治水」や「温暖化対策」を実現するためには、国・県の森林伐採計画に基づいた「早急な伐採」が重要であり、「生産効率の大幅改善」「危険作業の回避」が可能となる「伐採現場へのハーベスタの導入」により、「新たな作業形態の確立」と「域内での雇用機会の創出」を目指して実施した。

事業目的の概要

下記の経営課題解消を目的として取り組んだ。

(1) 伐採林齢の木材商品化

当社の所有山林約300haのうち、伐採林齢となっているスギ(70%)・ヒノキ(30%)は、約210ha存在している。木材の価値としては、林齢が50年から60年の成木の商品価値が高いため、これらのスギ・ヒノキを早急に伐採し市場に出すことが喫緊の課題となっている。

(2) 伐採作業期間(工程)の短縮化

植栽から伐採可能な林木になるまでには40年から50年かかり、投下した資本の回収に時間がかかるため、植栽・保育・伐採のサイクルを確立する必要があり、特に伐採作業の短期化を図るなど当該作業工程における生産効率を上げる必要がある。

(3) 林業イメージ改革

一部には若手従事者の雇用・活用が進んできたが、労働生産人口の減少に歯止めがかからず結果的に人手不足が深刻化している。現段階では、過酷な労働・危険な労働というイメージがぬぐい切れておらず、女性を含めた若年層にとっては魅力的な業種・業界とはなっていない。

導入機械装置

ハーベスタヘッド油圧ショベル WOODY WH50 ZX135USL-6



ハーベスタヘッド油圧ショベル WOODY WH50 ZX135USL-6



森林は適切な伐採と植林により健全な循環が維持される

事業の成果

●生産効率の向上に関する成果

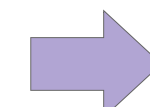
従来の生産方法では、1ヵ月あたりの稼働日数は19日(延べ人数46人)、生産量が178,605㎡であり、一人当たり3.88㎡の生産量である。ハーベスタ使用との比較では、1ヵ月あたりの稼働日数は19日(延べ人数19人)、生産量が400㎡であり、一人当たり21.05㎡の生産量であった。この結果、ハーベスタ導入によって作業効率が図られ、1班あたりの作業人員数が削減される。それによって班数を増加させることが可能となり、伐採スピードが上がり生産性が向上した。

●付加価値向上に関する成果

チェーンソーを使用することによる事故の削減ができ、伐倒時の木材との衝突事故や、枝打ちの際の跳ね返りによる事故が無くなった。極寒の中での作業中の体温低下が軽減され、疲労時における俊敏な動きができないための怪我也減少したと思われる。



人による作業



効率・安全性向上

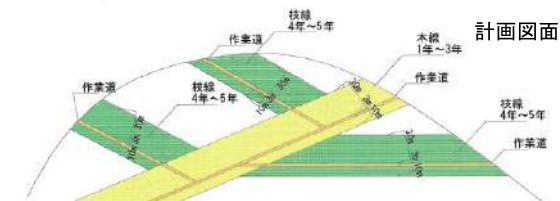


伐採から造材・集積までこなすハーベスタ

事業化に向けて想定している内容

新規ハーベスタを活用したプロジェクトチームを中心として、既存の林業チームと連携を図りながら生産量の拡大を推進し、労働災害ゼロを目指した、社内チェックシステム(KY活動)を構築していく。また、ハーベスタを導入し、伐採・造材・集積の作業標準策定を実施し、その後、新たな作業の見直しを再策定する。伐採計画としては、1~3年の間では、作業道側面30m以内の伐採となり、4~5年かけて枝線を造成し側面30m以内の伐採を行う計画である。新伐採量に関しては、現在6人で5,400㎡の伐採量をあげており、設備導入後同人員で9,900㎡の伐採量の増大予測をしている。その他、以下を想定している。

- 安全な作業形態の構築
- 国土保全・治山治水・地球温暖化防止に対する貢献
- 日野郡内における人材の確保・雇用の増大・女性の働く場の提供
- CLT等の新素材の販売・開発における低価格商品の提供
- 質の高い国産材利用の復活や中山間地域の治山・治水効果と併せた事業展開や、地球温暖化防止対策への貢献

Interview インタビュー
この人に聞きました!代表取締役社長
赤松 敬四郎

林業は魅力的な仕事であると同時に多くの課題を抱えています。危険が伴う仕事内容、木材単価の下落、業界の慢性的な人材不足、進まない主伐と再造林、後継者がいないために管理できずに放置されてしまう山林の増加など沢山の課題があります。私達はそういった課題を解決する存在になれるよう日々事業に取り組んでいます。ハーベスタなどの高性能林業機械を積極的に導入し、安全かつ生産性の高い作業で従業員の安全を確保し山主様への還元率を向上し、そして造林会社と提携することで、効率よく主伐と再造林を進めています。今後はハーベスタをメインに活用した作業システムをさらに改良して生産性を高め、儲かる林業、人が集まる林業を実現し、山林の若返り、中山間地域の活性化に貢献していきます。

株式会社赤松産業

● 代表者	代表取締役社長 赤松 敬四郎
● 所在地	〒689-3134 鳥取県西伯郡大山町高橋1406
● TEL	0859-53-8227
● FAX	0859-53-8462
● 従業員	33名
● 資本金	25,000,000円
● 設立年月日	1981年1月5日



● 主な事業内容

製材、林業、建築、リサイクル、公共工事

● 業種

06 総合工事業

<https://akamatu.jp/>

赤松産業 鳥取

検索



この企業の「強み」

赤松産業の大きな強みは伐採搬出から輸送運搬、そして製材までの工程を自社で一貫して取り組んでいる点にあります。中間マージンを減らすことで低コスト化を図り「儲かる林業」「人が集まる林業」を目指しています。